

# G7宮崎農業大臣会合の大臣たちを魅了した「太陽のタマゴ」はいかがですか。

平成7年就農  
施設マンゴー、  
早期水稲

## 【基本情報】



にたわき よしひこ

- 氏 名：仁田脇 義彦 さん（55歳）
- 所 在 地：宮崎市新別府町（自宅）  
宮崎市阿波岐原町（ハウス）
- 栽培品目：マンゴー 30a  
早期水稲 130a
- ◎ 2018年4月～2022年3月まで宮崎県果樹振興協議会亜熱帯果樹部会会長及びJ A宮崎中央マンゴー部会会長を務める
- ◎ 2023年4月のG7宮崎農業大臣会合の現地視察地に選定される

## 【就農の経緯】

東京で4年半サラリーマンを経験したが、自分の将来像を見直し宮崎へUターン。

27歳で就農し野菜栽培をしていたときに「グリーン博みやざき99」で体験したマンゴーの「綺麗さ・美味しさ」に感動しマンゴー栽培を決意。

マンゴー栽培を始めて今年で25年目。

【太陽のタマゴとは】 厳格な基準を満たす最高級マンゴー。「糖度15度以上」「大きさ2L（350g）以上」「外観A又はAA」



現地視察で収穫体験の説明中

## 【経営概要】

- ◆マンゴー 30a、収量 約5.1トン
- ◆持続可能な生産の工夫
  - ・重油加温機からヒートポンプへの転換
  - ・夏場まで作期を分散し、産地全体としてCO2削減に取り組む
  - ・トレーサビリティの導入

## 【G7宮崎農業大臣会合について】

- ◆2023年4月に開催されたG7宮崎農業大臣会合では、各国の代表が当農園を視察され、宮崎から農業の未来へのメッセージを発信できたことを誇りに思います。これからも環境に配慮した方法で、ますます元気に楽しく「太陽のタマゴ」を作っていきたいと思ひます。
- ◆未来を担う子供たちにも、直感を信じて、自分が感動して伝えたいことを実現してほしいと願っています。

## 【今後の取組】

- ◆G7で議論された「持続可能な農業」を実現するため、肥料や土壌改良剤の使用に配慮した、地球環境にやさしい農業を目指したい。

